

# 令和3年度 学校経営方針

主体的に学び合う学校、心と体を育てる学校  
地域とともに歩む学校を目指しています。

今年度重点的に取り組んでいる3つの柱

## 1 児童の主体性を育む教育活動の充実



<主な取組>

- 学力・学習状況の現状分析
- タブレット端末の有効活用
- 研究・研修の充実
- 地域とともに歩む学校
- 家庭学習の工夫



## 2 道徳教育の推進



<主な取組>

- 道徳授業地区公開講座の実施
- 家庭との連携
- 地域との連携
- 組織的な道徳教育



<主な取組>

- 組織的な対応
- 児童会との連携
- 個性の伸長
- スポーツ・文化活動における表彰

## 3 いじめ・不登校対策の強化



令和3年12月  
武蔵村山市立第三小学校

## 昨年度の学校評価より

### 令和2年度の学校評価の概要

- ・実施期間 令和2年11月27日から令和2年12月11日まで
- ・調査対象 武蔵村山市立第三小学校保護者346名
- ・調査内容 学校経営方針の内容に関する質問紙調査（5選択方式）  
「A大変あてはまる」「Bあてはまる」  
「Cあまりあてはまらない」「Dあてはまらない」  
「E分からない」
- ・回収率 保護者215名から回答 回収率62.1%

## <課題となった4つの項目>

- (1) 朝の時間を活用した朝学習や低学年において支援員等を活用するなど、個に応じた指導を徹底させ、基礎学力の定着に努めている。【確かな学力の育成】



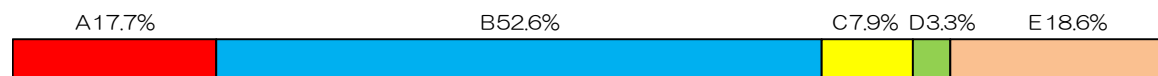
- (3) ICT機器等の教材・教具を効果的に活用し、児童が学習活動に主体的に学ぶように努めている。【確かな学力の育成】



- (5) 道徳科の授業において、児童相互に議論する場を設定するなど、自己の考えが深まるように指導の工夫を凝らしている。【豊かな心の育成】



- (6) スクールカウンセラーによる面接や学校生活アンケート等を活用するなど、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。【豊かな心の育成】



\*上記の番号は昨年度の学校評価の質問番号です。

4つの質問において、肯定的評価(AとB)が60%を超えていますが、「E分からない」と回答した割合が18%~28%程度という結果となり、学校で行っている取組が、保護者の皆様に分かりやすく伝わっていないという課題が残りました。

また、同時に回収率を向上させることも課題となりました。



## <今年度、重点的に取り組む3つの柱>

以下の3つの課題について、取組の成果を保護者に公表し、学校評価において検証します。

- 1 児童の主体性を育む教育活動の充実
- 2 道徳教育の推進
- 3 いじめ・不登校対策の強化

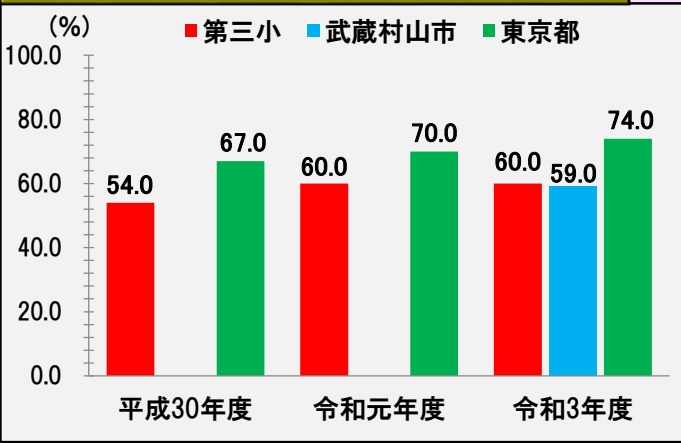


# 1 児童の主体性を育む教育活動の充実

## (1) 第三小学校の学力・学習状況の現状 (※1 全国学力・学習状況調査の一部より 6年実施)

※1 全国学力・学習状況調査  
文部科学省が、毎年、日本全国の小・中学校の最高学年(小6、中3)全員を対象としている調査です。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施されていません。令和3年度は、国語と算数、質問紙調査を受けました。

### ① 本校の学力の現状(算数の平均正答率)



※平成30年度、令和元年度の市の算数の平均正答率は公表されていません。

本校の学力の現状を表している左①のグラフを見ると、算数の平均正答率は、市の平均正答率を上回っていますが、東京都の平均正答率を毎年下回っている現状です。このことから、教員の授業力の更なる向上とともに、個に応じた指導の工夫が課題と捉えています。

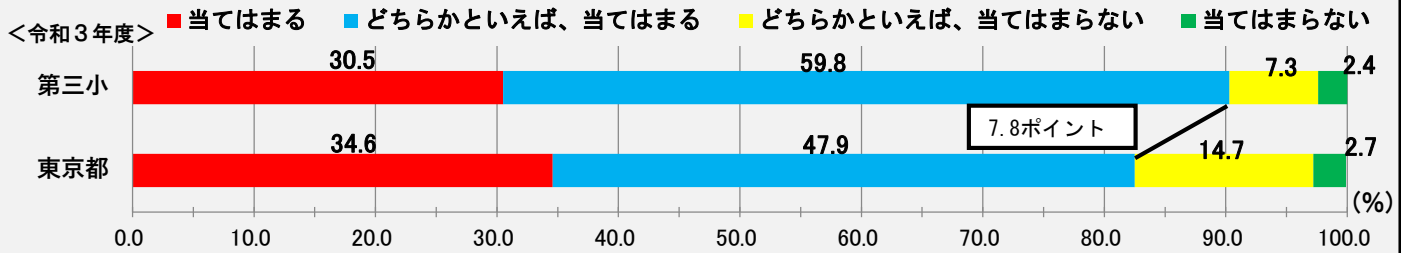
しかしながら、本校の学習状況の現状を表している下②のグラフを見ると、授業の中で相手の考えを尊重して聴き、自分の考えを分かりやすく伝えようとしていると回答した児童の割合(赤と青の部分)が、東京都より7.8ポイント高い状況です。



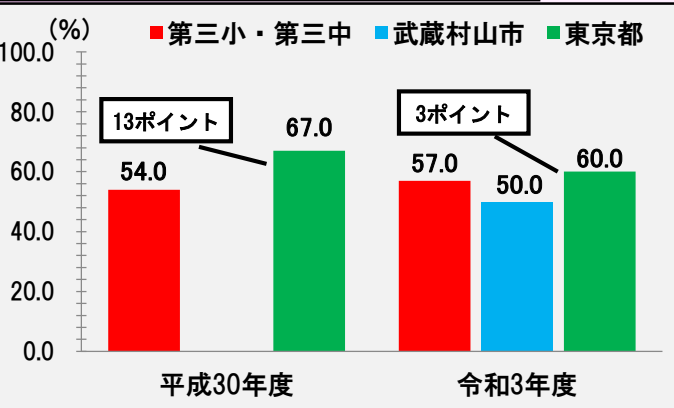
毎時間の授業で、課題解決に向けて主体的に学びを深めようとしている姿勢が、着実に養われていると考えています。

### ② 本校の学習状況の現状

5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。



### ③ 当該学年児童・生徒の学力の推移(算数・数学の平均正答率)



※平成30年度の市の算数の平均正答率は公表されていません。

第三中学校区における、当該学年児童・生徒の学力の推移を表している左③のグラフを見ると、平成30年度の調査において、東京都との算数の平均正答率の差が13ポイントであった当時の本校6年生児童が、今年度の調査(中3数学)においては3ポイントの差になっています。

また、今年度の調査(中3数学)において、市の平均正答率より、7ポイント上回っています。

このことは、中学校生活の充実と生徒一人一人の学業に対する意識の向上、家庭における効果的な支援、小学校段階での学習に対する基本的な考え方の習得などが要因であると考えています。

一方で、第三中学校区(第三小・雷塚小・第三中)において進めている授業実践交流会などの9年間を通じた児童・生徒の学力向上施策の成果とも考えています。



平成30年度全国学力・学習状況調査の算数の結果(当時の第三小6年)

令和3年度全国学力・学習状況調査の数学の結果(今年度の第三中3年)

## (2) タブレット端末の有効活用

### 【タブレット端末に慣れる取組】

初めてタブレット端末に触れる子供たちのために、まずは「慣れる」ことから始めています。学年の実態に応じて、朝学習や授業等での活用を進めています。端末を文房具のように学習手段の一つとして活用できるようにしたいと考えています。



### 【教科等の学びを深める】

5年社会「米づくりのさかんな地域」の学習において、タブレット端末を活用して今と昔の違いを調べました。

Microsoft Teamsを通じて資料を配布することにより、今と昔の米づくりの様子を比較し、友達と意見交換することができました。

児童からは、「テレビで見るより分かりやすい!」「自分で操作できるから楽しい!」と声があがりました。



## (3) 研究・研修の充実

### 【授業力の向上を目指して】

教員は、自らの授業力の向上を図るために、日々研修・修養に励んでいます。校内OJTを要として、今まで蓄積してきた指導技術を継承するとともに、教育委員会主催の研修、校内研究、管理職による授業観察などを通じて、児童が主体的に学習活動に取り組むよう、教員同士が協働して教材研究・教材開発を行っています。

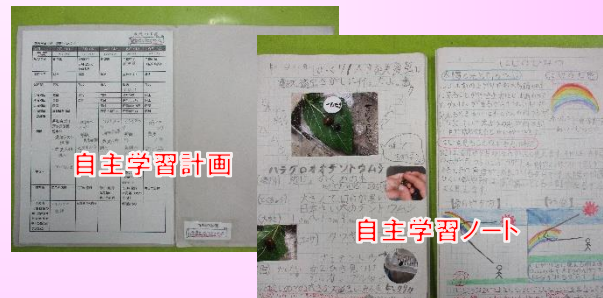


今年度も保護者の方に校内研究の様子が伝わるよう、研究通信を発行しています。



## (4) 地域とともに歩む学校

## (5) 家庭学習の工夫



### 【地域の資源を有効活用して】

地域の資源を有効活用して教育活動をすすめ、個々の児童の学びを確かなものにしていきます。地域の方をゲストティーチャーに招いたり、学習支援者として、地域の大学生等を活用したりするなど、個に応じた指導の工夫を図っています。

### 【主体的な学びを家庭に】

毎日の宿題で各教科の基礎基本の習熟を図るとともに、「マイチャレンジ」という自主学習を推進しています。テーマは児童自らで計画・決定し、調べたことをまとめます。

これまで蓄積してきた教育実践と最先端のICTを組み合わせることにより、教育の質の向上につながっています。

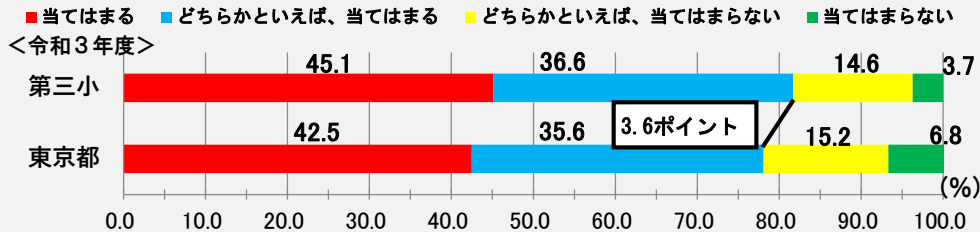


## 2 道徳教育の推進

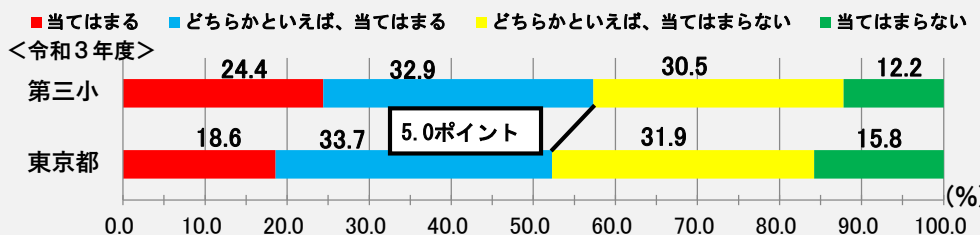
(1) 第三小学校の道徳教育の現状  
(全国学力・学習状況調査の一部より 6年実施)



① 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



② 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



左①のグラフ（赤と青の部分）を見ると、本校の道徳科の授業の実態は、東京都の平均より3.6ポイント上回っており、教員による授業改善が進んでいることがわかります。

また、左②のグラフ（赤と青の部分）を見ると、地域・社会貢献力について、東京都の平均より5.0ポイント上回っており、児童が、地域社会の形成者として自覚しようとしていることがわかります。

今後も学校では、道徳科の授業を要として、保護者・地域と連携し、学校の教育活動全体を通じて道徳教育の推進を図っていきます。

## (2) 第三小学校の道徳教育の取組

道徳授業地区公開講座の実施(今年度は公開中止)  
週1回の道徳授業の成果を、年1回地域に公開します。児童は自分と友達の考えを重ね合わせながら道徳的価値について考えます。



家庭との連携

保護者会等を活用して、保護者同士の懇談の機会を設定し、児童のよさや成長の様子を互いに共有します。



道徳教育全体計画のもと、道徳科の授業を要として、学校と保護者・地域が連携して道徳教育に取り組んでいます。

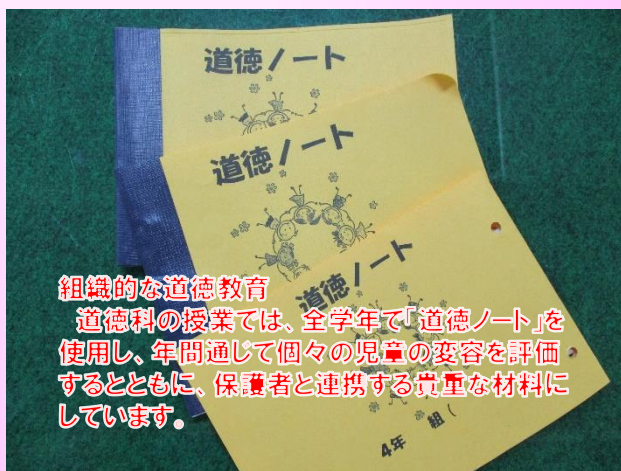
地域との連携

第三小グリーンサポーターの活動、地域のボランティア活動等を通して、社会の一員としての自覚と共に支え合う社会の仕組みを体験します。



組織的な道徳教育

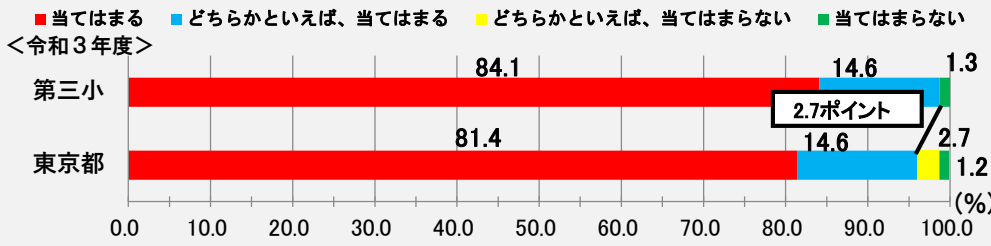
道徳科の授業では、全学年で「道徳ノート」を使用し、年間通じて個々の児童の変容を評価するとともに、保護者と連携する貴重な材料にしています。



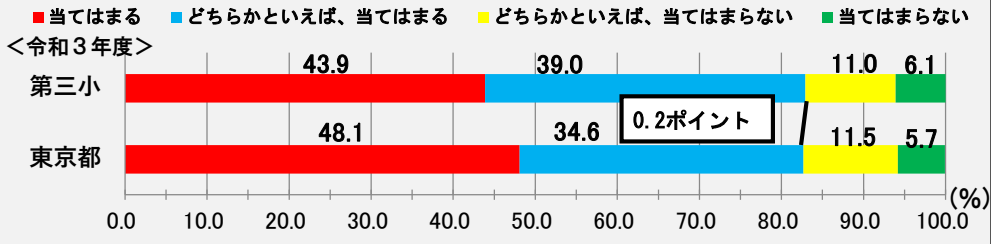
### 3 いじめ・不登校対策の強化

(1)第三小学校のいじめ・不登校対策の現状  
(全国学力・学習状況調査の一部より 6年実施)

①いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



②学校に行くのは楽しいと思いますか。

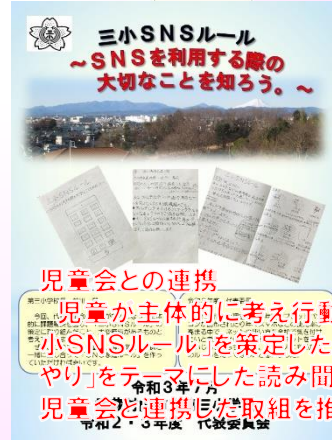
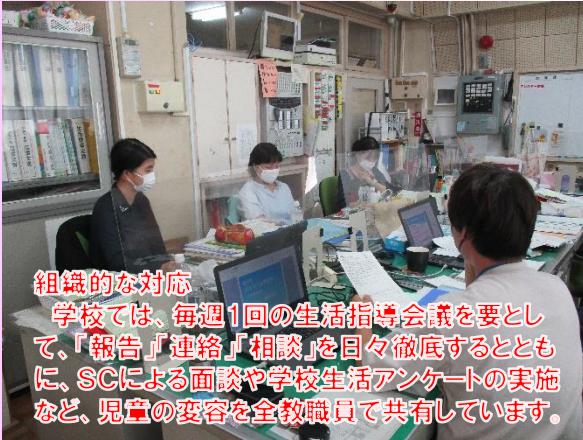


左①のグラフ(赤と青の部分)を見ると、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っていると回答した児童は98.7%で、東京都の平均より2.7ポイント上回っています。今後も学校では、いじめについて、毅然とした態度で児童に指導していきます。

左②のグラフ(赤と青の部分)を見ると、学校が楽しいと回答した児童は82.9%で、東京都の平均より0.2ポイント上回っています。今後も、学校では、児童に対して肯定的評価が日々生まれるよう、児童の実態を指導の課題と捉えて参ります。

また、児童一人一人の個性を最大限発揮できるように教育活動を意図的・計画的に行っていきます。

### (2) 第三小学校のいじめ・不登校対策の取組



子供にとって「安心・安全な学校」を構築するため、保護者・児童会等と連携し、いじめの撲滅・不登校の未然防止を図っています。

